

大学における授業の学修量を「単位」と表します。履修登録をした授業に出席し、試験（筆記、レポート、実技等）に合格することで単位が与えられます。これを積み重ね、必要な単位を満たすことで卒業ができます。

1単位の授業科目は45時間の学修量を必要とし、この学修量は、大学での学修と授業外学修時間（予習・復習）をあわせた学修内容を基準とします。また、各科目の単位数は、この授業時間数と授業外学修時間数をもとに次のように計算します。

$$\text{授業時間数} + \text{授業外学修時間数 (予習・復習・課題等)} = \text{単位}$$

卒業研究等を除き、授業時間数と授業外学修時間数の合計45時間で1単位となります。

### ●授業区分

	1単位の授業における学修時間	
	授業時間数	授業外学修
講義・演習	15～30時間	30～15時間
外国語・演習・実技・実験・実習	30～45時間	15～0時間
卒業研究等	学修の成果を評価して単位を授与します。	

### ●単位の認定時期

単位認定は以下の表の通りの時期に認定・開示されます。

開講期		単位認定／成績開示時期
前期、1Q、2Q		後期オリエンテーション
後期、3Q、4Q		3月上旬（最終学年）、下旬（最終学年以外）
通年		
集中講義	前期	後期オリエンテーション ※但し開講時期により3月になる場合もあり。
	後期	3月上旬（最終学年）、下旬（最終学年以外）

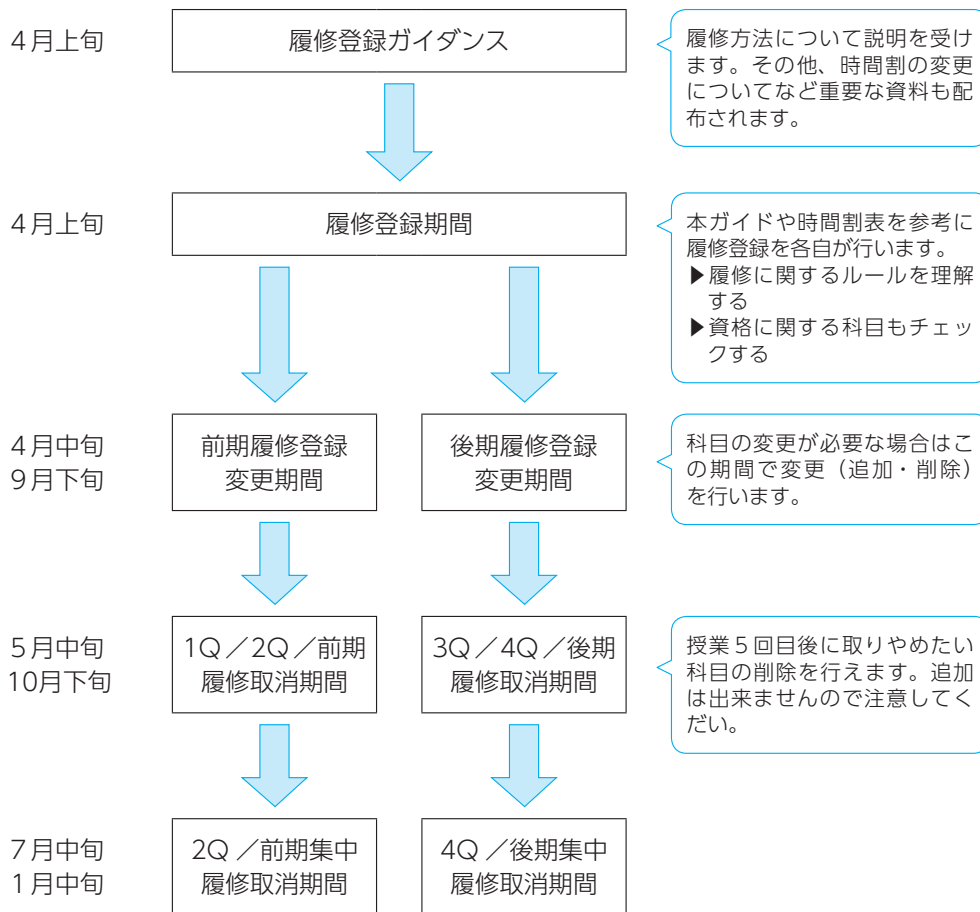
### ●学位の授与

4年以上（8年以内）在学し、次の「卒業要件単位数」を満たした学生は教授会の議を経た上で学長より卒業が認定され、学士の学位が授与されます。

	教養教育科目	専門教育科目	総単位数	学士区分
人文社会学類	33	76	124	学士（人文社会学）
心理学類	33	60	124	学士（心理学）
子ども学類	33	82	124	学士（教育学）
学校教育学類	33	85	124	学士（教育学）
健康栄養学類	33	85	124	学士（栄養学）

▶卒業要件  
参照 p.37

単位修得のためにはまず、卒業までの計画を立て、授業科目を Campusmate-J にて登録しなければなりません。この登録作業を履修登録といい、卒業に関する科目だけではなく、資格取得のための科目も登録しなければなりません。履修登録を行うためには、カリキュラム表、シラバス、時間割表を参考にし、4年間履修計画を立てましょう。履修登録は毎学年の始めに、当該学年に履修する科目（通年・前期・後期・集中等）全て登録します。



## ▶カリキュラム表

人文社会学類：参照 p.58～62

心理学類：参照 p.67・68

子ども学類：参照 p.72～74

学校教育学類：参照 p.79～81

健康栄養学類：参照 p.85～87

## ▶シラバス

参照 p.20・21

## ▶履修登録変更

参照 p.19

## ▶履修取消

参照 p.19

## 履修登録、時間割の組み方

- Step1 カリキュラム表の卒業必修科目(単位数に○の付いた科目)を時間割表にマーカーする。
- Step2 資格取得に関するカリキュラム表を確認し、時間割表にマーカーする。
- Step3 卒業必修科目や資格必修科目がない曜日・時限の科目をシラバスより確認し、希望する科目を時間割表にマーカーする。その際、卒業要件単位数、修得要件や資格の修得要件を4年間で満たすように計画的に履修する。

▶ GPA  
参照 p.31

●キャップ制（履修登録単位数上限制限）

授業の予習・復習等に充てる時間を確保し、学習効果をあげられるよう、無理のない履修計画を立てる必要があるため、1年間に履修登録できる上限数があります。（修得単位数ではありません。）

区 分	上限単位数	前年度の GPA による上限単位数		
		3.00 未満	3.00 以上 3.50 未満	3.50 以上
人文社会学類	45	45	51	53
心理学類	45	45	51	53
子ども学類	50	50	56	58
学校教育学類	50	50	56	58
健康栄養学類	50	50	56	58

▶各種単位認定  
参照 p.33～36

キャップ制に含まれない科目

- ①海外留学や研修、指定されたプログラムへの参加により認定された単位  
「チャレンジポートフォリオⅠ」  
「チャレンジポートフォリオⅡ」  
「チャレンジポートフォリオⅢ」
- ②学都仙台単位互換ネットワークにて履修し修得した単位
- ③放送大学特別聴講制度にて履修し修得した単位
- ④入学前の既修得単位として認定された単位
- ⑤外国語科目の技能審査により認定された単位
- ⑥教育職員免許状取得に関する科目の単位（子ども学類・学校教育学類は除く）
- ⑦言語インテンシブコースにおける英語コース必修科目区分A・B及び中国語・韓国語  
コース必修科目区分B
- ⑧自由科目  
学則別表2で定める自由科目  
学則別表3で定める資格取得に関する科目  
その他大学で定める科目（重履修可能科目など）

●再履修

単位未修得となった科目を再び履修することが可能です。

再履修においては以下の通り優先順位があるため確認してください。なお、履修状況や時間割上の都合で優先順位の通りに履修ができない場合があるので、必要に応じてクラス担任又はアドバイザーに相談してください。

◎下級学年の必修科目を履修する場合の優先順位

- A) 所属学年の卒業必修科目／B) 下級学年の卒業必修科目 →B) 優先
- A) 所属学年の卒業必修科目／B) 下級学年の資格に関する科目 →A) 優先
- A) 所属学年の資格に関する科目／B) 下級学年の卒業必修科目 →B) 優先
- A) 所属学年の資格に関する科目／B) 下級学年の資格に関する科目 →/B) 優先

#### ●履修登録読替願

科目を履修するにあたっては、p.18 で示した通り、履修の優先順位があります。基本はその優先順位に従い、履修登録をしてもらいますが、時間割の兼ね合い等で履修が困難な場合には教務課窓口で手続きをすることで他学類で開講している同一科目に読替できる場合があります。

#### ●他学類開放科目、その他自由科目の履修

自分の所属している学類以外で開講している科目を、履修することができます。受講を希望する場合には、希望する学類のカリキュラム表で受講可能か確認し、履修してください。なお、科目によっては履修条件などがあり、受講できない場合もあります。

▶他学類開放科目一覧  
参照 p.88・89

#### ●教員指定・受講者数制限科目

授業形態や教育機器設備、教室の収容人数等の理由を考慮し、科目担当者の振り分けや、受講希望者へ抽選を行う場合があります。受講者決定後には Campusmate-J でお知らせします。

#### ●履修登録変更

履修登録期間終了後、科目の追加登録や放棄が必要な場合は、定められた期間で履修登録の修正・変更が可能です。Campusmate-J で手続きを行います。

#### ●履修取消

履修登録期間、履修登録変更期間が終了した後に、履修を取りやめたい科目がある場合には、定められた期間に科目の取消ができます。履修取消を行うことで GPA の算出基準から除外されます。ただし、必修科目の取消はできませんので注意してください。教務課窓口での手続きが必要となります。